

D-ILA プロジェクターの高画質化の取組み

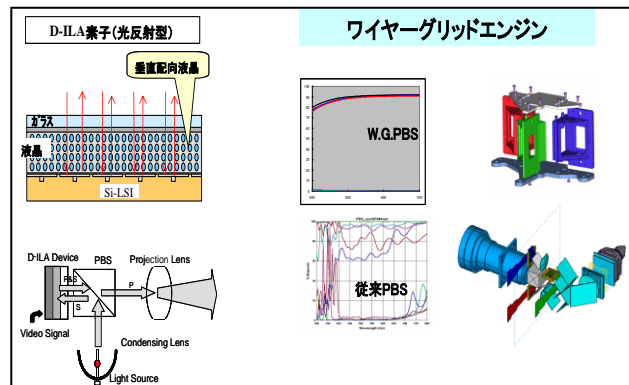
(株) JVC ケンウッド 高田 規

(株) JVCケンウッドでは98年よりオリジナル表示デバイスであるD-ILAを用いたプロジェクターを商品化しているが、その開発において一貫してプロジェクターの高画質化に取り組んでおり、その結果様々な市場より高評価を頂いている。今回、その取り組みについてD-ILAプロジェクターの初号機より開発に携わってきた技術者が、D-ILAプロジェクターの特徴である高コントラスト比改善の取り組みを中心に紹介する。

高コントラスト化は、素子、光学系、回路、機構設計、物造りにいたるまでプロジェクターに関わる全ての技術の合算としてもたらされる。そのポイントとなるエッセンスについて失敗談を交えて紹介する。あわせて、(株) JVCケンウッドのプロジェクター事業と今後の取り組みについても紹介する。



高コントラスト改善推移



高コントラスト光学エンジン

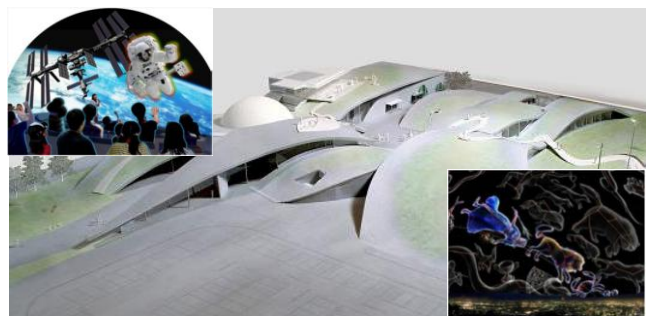
プレアデスシステムのあゆみと最新事例の紹介

科学技術館 永尾大作

プレアデスシステムのこれまでの導入実績を紹介するとともに、現在施工を進めている完全デジタル式のプラネタリウムシステム2例の詳細をご紹介します。

1例目は石川県小松市に建設中の「3D シアターホール」で日本海側では初の常設立体ドームシアターになります。通常のプラネタリウム解説や全天周映像はもちろんのこと、4Kプロジェクター4台を用いて、全天に広がる迫力の立体映像をご覧頂く予定です。

2例目は三重県津市に建設中の「(仮)デジタルドームシアター」で、国内でも珍しい民間施設のプラネタリウムで、ホワイエ、内装、座席等こだわり抜いた施設に、14mドームで4Kプロジェクター5台投影と言う、世界でも類を見ない超高精細映像で、光学式投影機に勝るとも劣らないプラネタリウムになる予定です。



五藤光学NOW<五藤光学の現在、そしてこれから>

株式会社五藤光学研究所 黒沼佳一

星とともに、技術をもとに。

私たち、五藤光学研究所は、1926年の創業以来、一貫してモノづくりにこだわってきました。天体望遠鏡、プラネタリウム、全天周映像、そしてデジタル映像に関する様々な技術に至るまで、私たちは、他者の真似のできない製品を時代の推移と共に生み出してきました。

この事業プレゼンテーションでは、こうした私たちのここ1年の成果や実績をご報告すると共に、これからの取り組みについて、ご紹介させていただきます。

日本国内はもとより、海外における取り組みや実績、プラネタリウム設備や関連設備は勿論のこと、私たちが制作するプラネタリウム番組の最新作、そして、素材販売など、私たち、五藤光学の取り組みにご期待下さい。



「つなぐ」「つくる」「つたえる」活動から「届けてつなぐ」活動へ

星空工房アルリシャ 高橋真理子

山梨県立科学館のプラネタリウムに16年間携わったのちに、“独立”して、これまでの仕事の延長上として、宇宙を「届けてつなぐ」活動をはじめました。届ける際のもっとも強力なツールとして、UniViewがあります。外に出ることで、どんな人たちと出逢えるか、出逢った人たちからもらった言葉、そこで立ち上がったプロジェクトの様子などを交え、プラネタリウムの星空とスペースエンジンがもっているポテンシャルをあらためて考えてみたいと思います。

○スタイル

暗くなるころがあれば、どこでも、というつもりで、時にはログハウスの天井にうつしたり、会議室の白壁を大きなスクリーンにしたり。東京の夜景に浮かび上がるようなスクリーン設定、もちろん、体育館でふつうのスクリーンでも。一人で行なうこともあります。Space Fantasy Liveでは、作曲家・ピアニストの小林真人とパーカッションの山本晶子とともに、音楽と映像と語りのコラボレーションライブも行なっています。また「解説」というよりは、ワークショップスタイルをとっていることも多くあります。

○スペースエンジンの特徴を使って

小さい子どもたち向けに宇宙と戯れる時間や、ワークショップとして、宇宙ステーションに乗った気分地球をひたすら周回、それらを見ながら人々が語りあい、表現しあう時間などを体験しています。そのことで、あらためて、宇宙から自分を見つめる視点をそれぞれが持ち、その後の生活に「地球を俯瞰する視点」が素直にはいつてくるようになった、「子どもの目がか変わった」「それまで親子で悩んでいたことから抜け出せた」など、人々の生き方に多いにコミットできるツールであることを感じています。

ドームシアタープロジェクトのご案内

株式会社リアルビズ 三好 心

株式会社リアルビズはこの度、株式会社東京現像所様の協力の元、独自でドームシアタープロジェクトを展開する事となりました。

吸気式ドームスクリーンをはじめとした、各種ドームスクリーン、魚眼レンズ付きプロジェクター、非圧縮連番再生映像再生サーバ、ドーム音響システム等、ドームシアターの構築をトータルでプロデュース致します。

また、カールツァイスプラネタリウム日本総代理店として各社様のご協力の元、日本国でのプラネタリウムの普及を積極的に行なっていく所存でございます。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

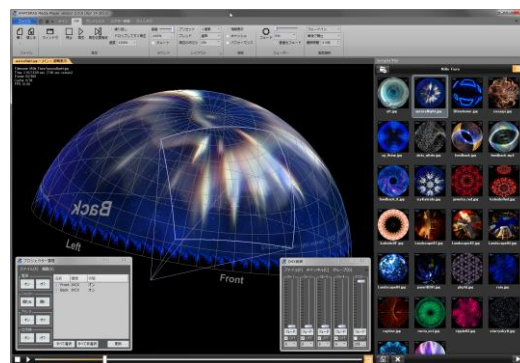
<http://dome-theater.com/>



ORIHALCON Technologies Works 2012-2013

株式会社オリハルコンテクノロジーズ 高幣俊之

2013年3月に、ドーム映像再生ソフトウェア AMATERAS Media Player version 2.0を発表し、フリー版の配布も開始しました。ドーム映像を誰にでもわかりやすく扱えるようにするべく開発してきた本ソフトウェアですが、この新バージョンでは抜本的な機能強化を行うことで、ドームシアターに必要とされる星空以外のほぼすべてを補うことのできる総合ツールへと進化しました。近年 AMATERAS は、屋外でのドームコンサートやアートイベントでの活用、札幌雪まつりや科学館展示でのプロジェクトマッピングへの応用と活躍の幅を広げています。



スペースエンジン UNIVIEW は、昨年秋に平塚市博物館に追加導入され、既存システムをそのままに宇宙映像の表現力を強化するというデジタルシステムならではの活用が始まりました。すべての導入館には最新の UNIVIEW 1.5.6 の提供が始まり、彗星や小惑星の接近、火星探査機や地球観測衛星からの最新データの追加、現場のニーズにもとづいた機能向上が日々行われています。今年後半には津市の高輝度・高密度 7 K デジタルプラネタリウム、小松市の立体ドームシアターへの UNIVIEW 導入が予定されています。またさらなる技術革新に向けて、JVC の世界初 8 K プロジェクターにも対応開発を行ってきました。

今後とも弊社の取り組みにご注目ください。

コニカミノルタプラネタリウムの取り組み2012-2013

コニカミノルタプラネタリウム株式会社 藤掛曜平

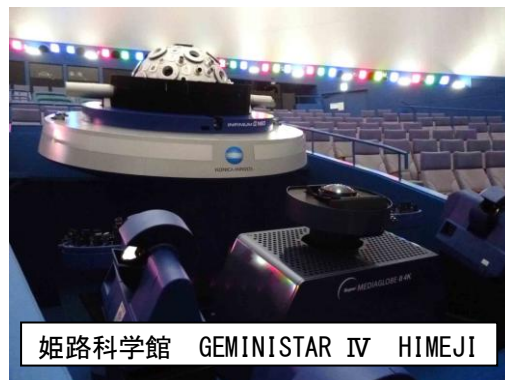
当社の昨年度の取り組みをご紹介します。

国内の納入実績としては、MEDIAGLOBE-IIIが2件、つくばエキスポセンター様にデジタルプラネタリウムの更新で、SKAYMAX DS II-R2 を、姫路科学館様に、世界初導入となる統合型プラネタリウムシステム GEMINISTAR IV HIMEJI (LED 光源光学式 INFINIUM α NEO+SUPER MEDIAGLOBE-II 4K) を、足立区こども未来創造館様には、世界初導入の SUPER MEDIAGLOBE-II 7K を納入させていただきました。

海外の納入実績としては、米国 Vanderbilt Museum、カナダ Planetarium Rio Tinto Alcan Museums nature de Montreal に光学式 INFINIUM S を納入しました。

直営館では、昨年5月22日にオープンしたコニカミノルタプラネタリウム“天空” in 東京スカイツリータウン®が50万人以上の来場者におこしいただき、コニカミノルタプラネタリウム“満天” in サンシャインシティもオープン以来最高の来場者数を記録することができました。

今年度も、新光学的プラネタリウムの開発をはじめ、様々な取り組みを行ってまいります。



「お客様の想いを形に」コニカミノルタプラネタリウムのこれからにご期待下さい。